



一本松まちづくりひろば

■本協議会についての記事特集号■

発行：一本松まちづくり協議会

発行責任者 斉藤 明



■広報よこはま西区版（平成20年11月号）

*西区内のもう一つの防災まちづくり協議会がある東久保町とともに紹介されました。

いざという時のために……

災害に強いまちづくり

「東久保町地区」及び「西戸部町地区」、木造住宅が密集し、狭い道路も多いため、災害時の避難等、防災上の課題を多くかかえています。

両地区では、地域住民の方が防災まちづくり支援団体や横浜市とともに、防災に関する勉強会を実施し、地域の防災まちづくりを推進する「まちづくり協議会」を設立しました。

災害時の避難ルートの整備や建物の耐震改修等「防災まちづくりの実現」を目指して、「防災まちづくり計画」を策定し、地域住民の方が主体となって、活動しています。

地域の皆さんの活動をご紹介します。



～いえ・みち まち改善事業～

東久保町夢まちづくり協議会（東久保町）

東久保町東前会、東台会、東睦会の3自治会・町内会により、平成17年に「東久保町夢まちづくり協議会」が設立されました。

平成19年12月に策定された「防災まちづくり計画」に基づき、現在、「いえ」「みち」「まち」「ぼうさい」の4つのグループに分かれ、まちづくりを進めています。また、地域の方の交流や事業資金確保を目的として、「夢やさい」市を開催し、地域の方に野菜を販売しています。



和田会長

夢まちづくりの「夢」は、住民の立場から安全で住みよいまちづくりを「夢をこめて」進めるために名づけました。楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。ご協力をよろしくお願いします。

一本松まちづくり協議会（西戸部町）

羽沢西自治会、西戸部二丁目第一自治会の2自治会・町内会により、平成18年に「一本松まちづくり協議会」が設立されました。

平成20年7月に策定された「防災まちづくり計画」に基づき、今後は、災害時の避難路の確保やミニ防災広場の整備・充実など、計画の実現を目指し、取り組んでいきます。



斉藤会長

住民自らが「自分たちのまち」について考え行動していくことが何よりも大切です。

取組を通して、防災まちづくり以外でも、お互いに協力している地域の基盤ができていくと良いと思っています。

企画調整係 TEL：320-8329 FAX：322-9847

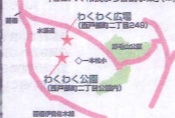
■広報よこはま西区版（平成20年8月号）

住民主体のまちづくり

不便な盆地も雨水・湧き水で大変身！～わくわく広場 & わくわく公園が整備されました～



西戸部二丁目第一自治会「わくわく倶楽部」では、「防災に強いまちづくり」を目標に、「ヨコハマ市民まちづくり事業」(※)により「わくわく広場」や「わくわく公園」の整備を行いました。



わくわく広場では、水道沿いの約10㎡のスペースに、防災倉庫や貯水櫃(3t)、ベンチの設置を行いました。

また、わくわく公園では、西戸部町二丁目公園内に、雨水タンクや貯水櫃(3.5t)の設置、水路の整備を行いました。

整備は地域住民やNPOの方等の協働で行われ、災害対策だけではなく、住民の方の憩いの場となる、とても素敵な空間が誕生しました。

「わくわく倶楽部」大島代表のコメント

取組を通して、地域の方々やメンバーとの心のつながりがより強くなりました。また、目的に向かって助け合い、進捗した後の爽快感は何物にもかえがたいという実感が得られました。これからも、地域の人が誇りを持てる安心した場所として、この施設を基盤に設備を充実させていきたいと思っています。



わくわく広場にて

左から2人目が大島代表

※ヨコハマ市民まちづくり事業とは一市民のみなさんが地域の特色を生かした身近な生活環境の整備を自ら主体となって実施し進捗することを目指す。整備に関する情報を公開し、市民が整備の支援を行うものとする。(都市整備局発行)

企画調整係 TEL：320-8329 FAX：322-9847

サウンドマークタワーがよ見ええる丘の上にある野毛動物園前の「戸原を降り、急な坂を下ると、西区の中でも住宅が密集した地域が広がっています。地帯内の道路は幅員が狭く、区とつながり、ほんのりが私道という現状で、消防車や救急車などの緊急車両や福祉車両が入ることが難しいだけでなく、災害時に避難するための道も急階段が多いため安全が確保されているとは言えません。このような防災上の課題を抱えた地域にある西戸部二丁目第一自治会と羽沢西部自治会は、平成18年6月に一本松まちづくり協議会を設立し、協力で防災まちづくり計画を策定してきました。二つの自治会の会長である、真藤さんと米岡さんに話を聞きました。

私達の組織及びプランが認定されました！

一本松まちづくり協議会 わたしたちの防災まちづくり計画ができるまで



防空を学んでいる西戸部二丁目第一自治会、西戸部西部自治会の子供たち。



町内に点在する防空壕の様子

この地域の安全を強化できることはないか、地域の万々の不安に思うことは何かを知るために全戸対象にアンケートを実施し、同時に地域の事情を行政に伝えてきたそうです。

防災まちづくり発起会………

一本松まちづくり協議会は、地域まちづくり支援制度を利用して専門家を派遣してもらい計画づくりを進めていきました。まず地域に住んでいる方が危機感を感じている場所を知り、専門家に相談しました。まち歩きを始めて気づいたことは、2つの自治会の地域では、危険度が高まるということでした。それでも一層進んでいくと実際に危険箇所を挙げることで、実際に協力していかないとどうも進んでいきません。そして、自治会同士が同盟点を出し合い共通部分は力を合わせて解決していくという体制ができ、防災のまちづくり以外でも協力している基盤づくりにつながりました。

まち・こころづくりプラン………

災害まちづくり計画の中には「まち・こころづくり」というプラン（目標）が盛り込まれています。災害時に高齢者などで支援が必要な方への支援体制を整えていくといった取組などが定められています。西区には区独自のふれあい会という組織や、この地域では日頃か

らのご近所のお付き合いもあり、既に一人住みの高齢者の状況は把握できていました。今後は防災や火災が起きている方や外国の方に対してどうでか支援できるか考えていきたいそうです。小さな路地を探んでご近所づきあいをしているこの地域だからこそできる活動と書えませんが、助けることができても避難所までの危険な道を今後どのように整備していくかなど、活動をつづけて多くの課題を見出しあげてきたそうです。

また、防災まちづくり計画についてはアンケートも行いました。その中で最も支援が多かったのは、見過しが悪い交差点や歩道・歩道が壊れやすい道の拡幅や改良などについてのプランでした。まず、西戸部二丁目第一地区では、「ミニ防災広場」として、既存の公園にまどベンチを設置することを、羽沢西部地区では、今でも豊かな湧き水が出る4箇所の井戸を、災害時にも活用できるように囲いや屋根をつくり、手押しポンプを設置することを考えています。さらに協議会としては各世帯で取り組めることから始めようとして、避難経路停止標や、無敵防止フィルムなどをまとめて購入し、購入者の負担をできるだけ軽減する

のように、まちづくりに、住民自らが「自分たちのまち」について考え行動していくことが何よりも大切だと言っているのではないしょうか。



町内の危険箇所を把握した

一本松まちづくり協議会の取組 最新情報

一本松まちづくり協議会では、横浜市地域まちづくり支援制度に定める助成金交付を申請しておりましたが、平成21年1月に開催された審査会を通過し、交付が認められました。本年度に実施する事業は次の通りです。

- 「ミニ防災広場」の充実（防災まちづくり計画：プラン12【プロジェクト2】）
平常時は地域住民に愛される憩いの場、災害発生時には避難・誘導・復旧活動のための拠点となる小空間を整備します。
 - 西戸部二丁目公園
・かまどベンチの設置
 - 羽沢西部地区内三角地
・雨水浸透型舗装
- 災害時の水の確保（防災まちづくり計画：プラン4【プロジェクト1~4】）
災害時に役立つ水の確保に取り組みしています。
 - 各家庭敷地内への雨水利用の貯水タンクの設置（計2基）
・西戸部一丁目、二丁目に200ℓ用タンクを各1基
 - 既存井戸の災害時活用のための補強整備（西戸部一丁目に1箇所）
・補強棒、手押しポンプ、流し、排水の整備

※ 「まち・こころづくりプラン」の策定は、防災上課題のある密集住宅地の改善のため、「いえ・まち まち改善事業」を推進していますが、この地区が対象の23地区のひとつに選ばれたことをきっかけに、協議会を積み重ね、協議会を設立しました。このように市の事業がきっかけで、二つの自治会が一つの協議会として協力し、防災の課題に取り組むことになりましたが、それぞれの自治会は、地域で活動していき継続を話し、双方にない部分を補いあっています。この二つの自治会の連携による取り組みが、計画を作り上げ、今年の8月の地域まちづくり組織およびプランの協定につながったのです。多くの方が参加した協議会では、まち歩きをして危険な箇所を確認したり、実際に消防車や救急車が入り込められるようなことなるのが心配なため、当初はまちづくり計画ができあがるなど考えられず、一層の光も見出せなかった。」と、羽沢西部自治会会員の米岡さんは当時を振り返っておっしゃっていました。

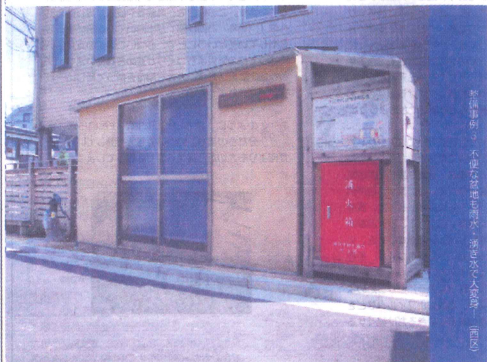
※ 危険箇所づくり支援制度
地域の防災対策や防災力向上と、居住環境のまちづくりに関する活動を行うための補助金制度です。詳しくは下記をご覧ください。
<http://www.city.yokohama.jp/m/toshi/shiikisochi/ishikisochi/>

※ 地域まちづくりプログラム概要
この制度は、町内自治会まちづくり推進事業に定められたもので、地域の環境、子育てのつくり、防災活動など課題解決に向けた取り組みや、地域まちづくり推進事業推進費の活用やまちづくりをすすめるための活動費、協議会まちづくりプラン作成、住民参加型支援制度です。
<http://www.city.yokohama.jp/m/toshi/shiikisochi/Atsuyoku/zpi-misetsu.html#0003>

※ 一本松まちづくり協議会 防災まちづくり計画
<http://www.city.yokohama.jp/m/toshi/shiikisochi/Atsuyoku/zpi-misetsu.html#0003>

防災に強いまちづくりは、 人の輪づくりから

整備事例③ 不便な盆地も雨水・湧き水が活用できるまちづくり（西区）



西区西戸部二丁目には斜面地に囲まれた盆地で、防災上の課題を抱えていました。そのための地元の人々はまち歩きや勉強会を重ね、災害時に備えたまちづくりのアイデアをまとめているましたが、まち普請事業を知り、このアイデアを形にしよと、わくわく倶楽部を結成し応募しました。

使われなかつた古い消防団の小屋が建てた場所にはわくわくハウスを建てました。手作りソーラーパネルを使って豊富な地下水を、ハウスの下の貯水槽に汲み上げる仕組みを取り入れました。街角3箇所には雨水タンクを設置し、公園では雨水タンク2ヶ所、地下タンクに溜めた雨水を手押しポンプで流すせせらぎの整備も行いました。一本松小学校の子どもたちが夏休みにつくりあげた絵画が貼られています。ハウスのモルタル塗りタンクの設置、せせらぎの整備などの作業には延べ1,800人の地域の人



不便な盆地も雨水・湧き水で大変身！整備概要

整備主体：西戸部二丁目第一自治会わくわく倶楽部
 整備場所：西区西戸部町
 整備内容：地下貯水槽設置、水田整備、まちかど広場・防災小庭整備、雨水タンク設置
 竣工時期：平成20年3月
 協力：企画総合都市設計/開発科・都市計画研究所
 横浜総合都市研究所/研イゼキ/研セコ
 朝倉子ブロッコ工場/エック/西井建設/朝倉工場
 朝エルガ/ショップス/研セコ/研イゼキ

access map



が参加しました。整備が完成した現在、雨水タンクの清掃やせせらぎの維持管理をする体制づくりを進めています。雨の日も防災の日も作業を続けていたわくわく倶楽部のメンバーの姿を見て、自然に地域の人も参加するようになりました。これまで以上に強い信頼関係ができたことです。まち普請事業をおして、災害時に役立つ施設に加え、人の輪づくりがいつぞう進んでいきます。

わくわくハウス（写真上） 湧き水が10cm深まると、自動的コンローラー/パネルの力で動くポンプでハウスの下の貯水槽に水を汲み上げるように工夫をしました。あわせて、小さな容量の雨水も貯水槽にしか取り込み、タンクの水を溜めています。
 せせらぎづくり（写真中） 西戸部二丁目公園のせせらぎに、小学生たちが絵タイルを貼りました。色なくないよう、道員のせせらぎとなっています。
 雨水タンク（写真下） 雨樋からの水を溜める雨水タンクを街角3箇所に自分たちで設置しました。